

平成 30 年度第 1 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 30 年 6 月 13 日（水）15 時 00 分 ～ 16 時 30 分

2 開催場所

岡崎市役所分館 2 階会 202 号室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（21 名）

伊豆原	浩二	委員	（愛知工業大学 客員教授）
松本	幸正	委員	（名城大学 教授）
河合	貴夫	委員	（名古屋鉄道（株） 東部支配人室 営業総務課 課長）
西川	雄一郎	委員	（愛知環状鉄道（株） 運輸部 管理課 課長）
近藤	博之	委員	（名鉄バス（株） 運輸部部長）
※萩木場 護 事務リーダー 代理出席			
鋤柄	徹	委員	（名鉄東部交通（株） 常務取締役営業本部 本部長）
河口	恒徳	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長（名鉄岡崎タクシー））
小林	裕之	委員	（（公社）愛知県バス協会 専務理事）
※金丸 健司 事務局長 代理出席			
中村	彰宏	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事）
前山	敏昭	委員	（岡崎商工会議所 交通部会長）
神尾	明幸	委員	（岡崎市総代会連絡協議会 会長）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会 会長）
宮本	一彦	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
吉口	栄次	委員	（額田地域生活交通協議会）
四辻	純也	委員	（国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長）
杉本	忠久	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官）
榊原	仁	委員	（愛知県 振興部 交通対策課 主幹）
※児玉 朋孝 主査 代理出席			
森部	浩幸	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長）
西崎	隆彦	委員	（愛知県警察 岡崎警察署 交通課長）
寺田	雄司	委員	（岡崎市 副市長）
山本	公德	委員	（岡崎市 総合政策部長）

(2) 欠席委員（1 名）

加賀 時男 委員 (岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長)

4 関係議題審議のために出席した地域内交通運行委託事業者の代表者等氏名

豊栄交通(株) 境 政義 氏

*横田 太 氏 代理出席

岡東運輸(株) 荻野 煌弐 氏

*水越 誠 氏 代理出席

(株)西三交通 川合 幹根 氏

*佐野 良明 氏 代理出席

5 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

本多 徳行 (地域創生課長)、杉山 幹昌 (副課長)、井尻 智久 (主任主査)、
細野 雅人 (主査)、湯口 航平 (主事)、徳原 誉人 (事務員)

6 傍聴者、随行者等

3名

7 会長あいさつ

(内容省略)

8 議題

(1) 平成 29 年度決算報告及び監査報告について

平成 29 年度決算報告及び監査報告について資料 1 により報告するとともに、
監査委員より歳入歳出決算について適正である旨の報告がなされた。

本件について委員より質問や意見はなく、報告のとおり承認された。

(2) 平成 30 年度事業計画案及び予算案について

平成 30 年度事業計画案及び予算案について資料 2 により説明をした。

<以下、各委員の意見等>

委 員： 公共交通に親しむ日の事業については、新しい公共交通マップの表紙に記載のある「マイ時刻表」の記入にあたってのサポートをどこかで実施してほしい。例えば、公共交通に親しむ日の開催時にブースを設け、マイ時刻表の作成支援をする、もしくは、乗り方教室や、転入者向けに渡す時に、よく行くところを聞きながら作成の支援をするなど、機会をとらえて取り組んでほしい。自分で時刻表を調べることは中々難しいので、作成の支援をすることできっかけ作りにもなる。良いマップを作成していただいたので、より活用

してもらえる施策にも取り組んで欲しい。

事務局： 公共交通に親しむ日の事業の中などで是非取り組んでいきたい。

座 長： その他、ご意見等ないようなので、委員の皆様のご承認を得られたということでしょうか。

委 員： 異議なし。

(3) 生活交通確保維持改善計画について

生活交通確保維持改善計画について資料 3 により説明をした。

<以下、各委員意見等>

副座長： 数値目標について、基本的には平成 29 年度の実績を目標値としているが、額田地域は人口が減少傾向にあるため、本来であれば利用者数も減っていくが利用促進により現状維持を図るという意味だと理解している。

一方、利用率だが、人数を確保しようとする一方で、地区によっては人口の減少が大きいということなのか、その地域については右肩上がりの数値になっている。例えば形埜地区線は 31 年度から 33 年度の目標が 0.3→0.3→0.31 となっており、これは平成 33 年度に向けて人口減少が大きくなるという認識で良いか。額田支所市民病院線に関しては 29 年度の実績が 0.18 に対して 31 年度の目標が 0.28 になっていることについて、その補足をいただきたい。

事務局： まず形埜地区線については、人口の減少率をかけながら利用率を算出しており、平成 33 年度に 0.01 あがる計算となっている。

額田支所市民病院線については、沿線人口の減少率を踏まえつつ、新しい額田支所がオープンして乗り換えの拠点として活用できるようになり、また今後も額田支所整備と合わせ利用促進に取り組んでいきたいとの考えで目標を設定している。

副座長： そうすると利用者数も増えるのではないか。

事務局： 人口減少を加味すると、利用者数を右肩上がりとすることがなかなか難しい面もあるため、横ばいとしている。しかし利用率の目標値をあげて、達成に向けて取り組んでいきたいと考えている。

副座長： 額田支所の整備に伴い、乗換拠点化を進めていくため利用率は上げる目標にして、必ずしも整合は取れていないが、どちらかの目標は達成したいということか。

事務局： そのとおりである。二つの目標をともに達成することはなかなか難しいと思われるため、どちらかが達成できるような目標を設定している。乗り換えの拠点として活用されるよう取り組んでいきたい。

副座長： その中で利用率を見ていくと、下山地区が他地区より高い。下山地区では例えば協賛金の導入や、企業へのささゆりバス周知など、色々と独自の取り組みをしており、そのご努力がこの数値に表れていると思う。

逆に言うと、他地区でこのような取り組みができれば、この数値も目指せるのではないかと。ぜひ下山地区を目指して各地区でも取り組んでいただければ、この数値目標は決して不可能ではないと思う。今後、地域に入っていくうえで、地域の方と一緒に協議してもらうことが何よりも大事だと思っている。

それから、公共交通に親しむ日についてだが、これはフィーダー系統の申請となるため、フィーダーについても記載してほしい。公共交通に親しむ日では、額田地域の観光案内も取り組んでいなかったか。

事務局： 額田地域の魅力の発信や、額田地域を走っているバスの展示をするなど、額田地域を紹介している。その取り組みも計画書に記載していく。

副座長： 岡崎市内から額田地域に来てもらうことも、利用者の増加につながる重要な取り組みだと思う。それから、二次評価で「近隣市町との連携による広域的な公共交通ネットワークの構築することを期待します」とあり、計画書にも「近隣市との連携を強化」と記載されているが、具体的には何を行っているのか。

事務局： 近隣市との情報交換のなかで、イベント情報をそれぞれで広報したり、そのイベントに行くときにバスを利用してもらうよう案内することで、利用促進に繋がるのではないかと意見交換はしているが、具体的なところまでは決まっていない。

委員： 資料３－１参考資料にも記載があるが、年々国庫補助金の申請上限額が下がっている。国の予算が非常に限られているなか、効率的に利用してもらうため、上限額の算出方法が年々厳しくなっていることはご理解いただきたい。
平成 31 年度の上限額算定について、もう 1 つ要素が絡んでおり、人口密度

を一つの指標として定数をかけることとなっている。支局の企画調整担当と確認を取りながら提出してほしい。

事務局： 支局と確認しながら、国へ提出していきたい。

委員： 資料３－１について、フィーダー系統を中心に説明していただいた。愛知県もバスに補助を出しており、桜形線には平成 28 年度まで補助を出していたが、平成 29 年度から輸送量の下限を下回る形になったため、名鉄バスへの補助を打ち切っている。桜形線は、先ほどの事務局説明のとおり、額田地域へのアクセスの重要な路線の一つとなるため、フィーダー系統に限らず、地域間幹線系統も忘れずに今後も盛り上げてもらいたい。

次に、資料３－２の小中学生を対象にした出前講座の実施のなかで、小学生に対するバスの乗り方教室を実施とあるが、他市町村の交通会議等へ出席するなかで、「免許を返納後、どうやってバスを乗ればいいのか」「自分の街にバスが乗り入れていることを知らない」という話を聞いている。小学生だけではなく高齢者向けにも考えてみたらどうか。

事務局： 小学生も対象にした理由として、街中の小学生もバスに乗る機会があるが、バスの乗り方を知らない生徒もいると先生から聞いていた。そこで、小学校 5・6 年生向けに乗り方教室を試験的に実施した結果、バスの乗り方を知ってもらえただけでなく、公共交通マップを使いながら小学校周辺を走っているバスを紹介することで、バスに対する興味も持ってもらえた。これからの利用者に対しても、乗り方教室を実施していきたい。また高齢者向けについてだが、実施していないわけではなく、市の出前講座のメニューでバスの乗り方教室を登録しているが、全体的にもう少し視野を広げて取り組んでいきたい。

委員： ３－２の利用者数についてだが、平成 28 年度は平成 27 年度より増加しているが、何か手を打ったのか。また平成 29 年度は急にまた減少しているが、なぜか。そのすぐ下に、額田地域の人口の推移という表があるが、平成 37 年度になると 65 歳以上の方が 170 人以上増えて、全体で 800 人減少する。今から 7 年度後には増々深刻な状況となる。

事務局： 利用者数の増加についての分析はしきれていないが、一つの要因として平成 28 年度に額田地区コミュニティ交通の運行見直しのため地域に入っており、それによりコミュニティ交通に対する意識や関心が高まったのではないかと考えている。

委員： 何度か交通政策会議に参加しているが、現状や現実をよく知らない。会議の場では聞いているが、現実にはどのような運行をしているか正直知らない。もしよろしければ、委員の皆様も路線に乗ってみるなど、机上論ばかりではなくて、現実を知るといことも大切ではないか。

事務局： 委員の皆様も多忙だと思うが、調整が可能であれば、現場を見ていただく機会を作っていきたい。

委員： どのような方をターゲットにして乗客数を増やそうとしているのか。高齢者が中心になっている気がするが、果たして今後、乗客数が増える施策があるのかという危惧をしている。バス停も関係なく好きなところで乗り、好きなところで降りるなどのサービスにより、利用者の利便性を高めないと利用されないのではないか。

事務局： 額田地域は定時定路線型のバスが走っている。今後、地域の方と一緒に例えば予約型（デマンド型）や、自家用自動車を使用して地域の方が運転する自家用有償運行など、利便性が高くニーズにあった運行手段を研究しながら、定時定路線に限らず、色々な運行形態の検討をしていきたい。なお、現行の路線でも一部路線はフリー乗降区間を定めているので、その間であれば、どこでも乗降可能である。

委員： 乗客の方の年齢構成はどうなっているのか。

事務局： 高齢者の利用が多い。

委員： 豊田地区は貨客混載が既にはじまっているが、岡崎市の将来的な計画はどうか。

事務局： 豊田市で貨客混載が始まったのは把握している。額田地域のコミュニティ交通に貨客混載を導入するかどうかについては、条件整理も含めて検討する必要があると考えている。豊田市の貨客混載とは異なるが、名鉄バスの桜形線やくらがり線では、額田地域に新聞をのせて運ぶ取り組みをしていると聞いている。

座長： そういった仕組みについて、事務局側で事業者や豊田市から情報をもらうことをまずはやってもらいたい。第三者評価委員会でも「近隣市町との連携を期待します」とあるが、実際はやってください、とお願いしている。豊田市は貨客混載だけではなく、いろいろな取り組みをしており、安城市も同様で

ある。そういう周辺市町の情報をしっかり入手する必要がある。連携するといっても簡単ではないが、そのような情報を早く入手し、岡崎市で実施する際の課題は何か、実施が可能なのかを含め情報を集めて検討することが大切である、ということが先ほどのご提案だと思う。やれるかどうかをここで検討することはできないが、近隣市や名鉄バスからも情報をもらいながら、いろいろなやり方を是非検討してほしい。

額田地域の実情も含めて何かご意見等はあるか。

委員： こうしたコミュニティバスを確保していただけるのは、非常に感謝している。バス利用者の現実の話として、車を運転できない、免許を持っていない、かといって山の中なので買い物や病院に歩いて通うことはできない。そういった方がバスを利用しているのが実情である。コミュニティバスがなくなった時、このような人が買い物や病院へ行けるのかといったことを非常に不安に思っている。そうした中で、コミュニティバスがあるということで、街中へ出かけることに対して、家族の負担が減っている。

先ほど、下山地区線の利用率がよいとの話があったが、この地域は合併前からバスの利用率は良かった。その理由として、地域の地形、集落の構成が大きく関係している。地域活動が利用率をあげる一つの要因ではあるが、それ以上に、市民病院までバスが走っており、そこで市内へのバスに乗り換えることができることも要因として挙げられる。もう一つが、桜形にある北部診療所への通院や、買い物ができることである。北部診療所へ行くバスの便は曜日が決まっているが、その日は多くの利用者が北部診療所へ行き、帰るときは食料品を大量に購入している。このように下山地区では、バスが車を運転できない人の生活の足となっている。

桜形地区を見ていると、町内が本当に入り組んだ地域であり、それを全部網羅しようとする、人が乗っていない空バスが多くなる。そのような理由で、利用率が少なくなるのではないかなと思う。

先ほど事務局から話のあった、予約型の運行についてだが、個人的には予約型の運行が一番地域のニーズに合っており、利用率も上がってくるのではないかなと思っている。そういったことを、今後勉強していただけるとありがたい。

座長： 額田地域の現状についてお話しいただいた。生活の仕方や地形も異なっているため、事務局が先ほど言ったとおり、額田地域の皆さんと話を何回してもらい、次はどうステップアップしていくのか、この会議の中でご報告してもらえたらと思う。

生活交通確保維持改善計画の提出期限は6月末となるため、目標値の設定

及び国庫補助額や文面の追記等については、事務局と座長、副座長、中部運輸支局と調整することをお任せいただき、申請した内容については改めて各委員へ郵送することを条件に、生活交通確保維持改善計画についてはご了承をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委 員： 異議なし。

座 長： それでは、最終的に国へ申請したものは、事務局から各委員の皆様へ郵送等で送付してほしい。

9 報告

- (1) 宮崎地区線（のってこバス）停留所名称の変更について
宮崎地区線（のってこバス）停留所名称の変更について資料4により説明した。

10 その他

- (1) エコモビ推進表彰候補団体募集について
エコモビ推進表彰候補団体募集について、別紙資料により愛知県交通対策課より説明した。
- (2) 日本モビリティマネジメント会議について
座長より、7月27日（金）・28日（土）に名鉄トヨタホテルで開催される、日本モビリティマネジメント会議の案内がされた。

11 連絡事項

次回会議（平成30年度第2回）は日程が決定次第連絡する。

－ 会 議 終 了 －